

令和5年度 太宰府市立太宰府西中学校 学校の自己評価報告書

R6.1.23

1 学校の教育目標

「自ら輝き、成長を続け、なかまと共に心身逞しく、未来を創造する生徒の育成」

2 本年度の経営の重点目標

<確かな学力の向上>

<豊かな心の醸成>

<信頼される学校づくり>

3 学校評価大項目（主項目）

I 確かな学力の向上

○自ら学ぶ意欲をもち、見通しをもって計画的に学習に励み、基礎基本の習得をめざす生徒
○心身ともに健康で、学校生活を明るく前向きに過ごし、学校生活を充実させることができる生徒

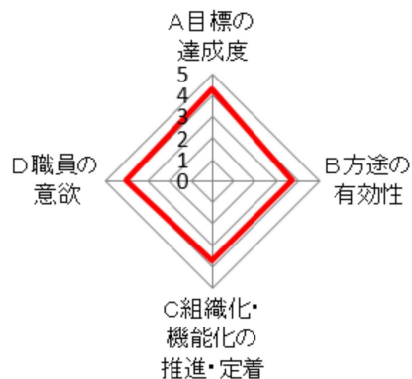
II 豊かな心の醸成

○豊かな人権感覚をもち、自分の価値を認め、他者の多様性を受け入れる思いやりがある生徒
○地域行事等に参加・参画し、地域のために貢献できる生徒

III 信頼される学校づくり

○コミュニティ・スクール（CS）の推進
※三者（学校・家庭・地域）の連携・協働、情報の発信
○学校の危機管理

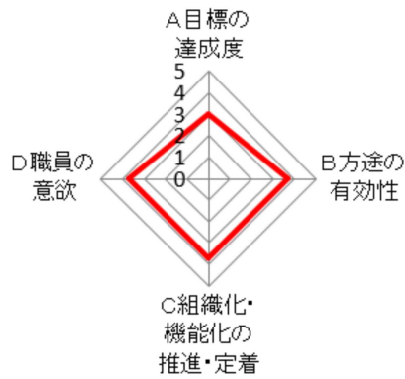
I 確かな学力の向上



総合評価

3. 9

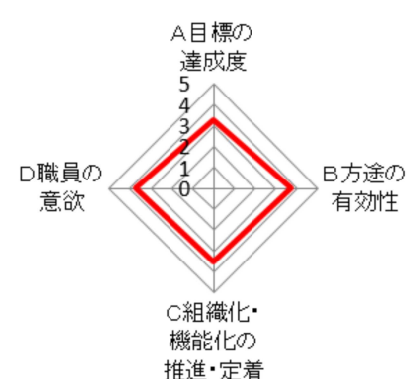
II 豊かな心の醸成



総合評価

3. 5

III 信頼される学校づくり



総合評価

3. 6

※ 5段階評定尺度 … 「5 とても満足できる

4 満足できる

3 概ね満足できる

2 努力を要する

1 根本的な改善が必要」

4 総括的評価と次年度の重点方策

I 確かな学力の向上

○ 本年から新しく校内のOJT機能を活用し、授業改善をすすめることができた。
○ ロイロノートなど、生徒用タブレット等のICT機器を効果的に活用することができた。
● 教員の授業力にまだ差はある。これからも研究推進委員会のメンバーをリーダーとして校内での授業公開、協議を行っていく必要がある。

II 豊かな心の醸成

○ 生活アンケート「自分には、よいところがあると思う」に肯定的回答が後期86%、「人の役に立つ人間になりたい」に肯定的回答95%であり、生徒の豊かな心が育ってきていることが伺える。
● 不登校生徒の数が増加しており（12月末37名）、不登校の要因が家庭や本人に関わるものが多いため、今後も関係機関との連携を行っていく必要がある。

III 信頼される学校づくり

○ コロナ禍が終わり保護者が学校や子どもの様子を把握する機会が増え、保護者による学校評価の後期の数値が多くの上昇し、学校の教育活動に一定の理解を得ることができたと考え。
○ 学校便りや校長のホームページ掲載等で定期的に情報を発信することで教育活動への理解を図ることができている。
● 小学校と9年間のめざす子どもの姿を共有し、少しずつ西中ブロックとしての活動を再開していく必要がある。

<「3 学校評価大項目（主項目）」の評価の視点と各評価>

○ 5段階評定尺度…「5 とても満足できる 4 満足できる 3 概ね満足できる 2 努力を要する 1 根本的な改善が必要」

3 学校評価大項目	評価の視点	(細目)	評価	総合評価
Ⅰ 確かな学力の向上	A 目標の達成度	・全国(正答率・学習状況)・県テスト、学力診断テスト、体力テスト、定期考査等の結果 ※指標以上	4	3. 9
		・生徒の自己評価(主として学力面)、保護者の評価(学習指導・家庭学習)	4	
		・計画的な校内研修及び1人1～2回の公開授業の実施	5	
	B 方途の有効性	・校内研究(協働的な学びと振り返り活動)の成果・課題	4	
		・生徒による各教科(授業)の評価	4	
		・朝学習や自学ノート、週末課題などによる基礎学力の定着	3	
	C 組織化・機能化の推進・定着	・主任主事、研究推進委員会、学力向上委員会の機能化	4	
		・小学校、家庭、他機関等との連携	3	
		・生徒会活動を活かした学習規律や学習習慣づくりの徹底	4	
	D 職員の意欲	・主題研究・一般研修の推進	4	
		・職員の自己評価(A 学習指導)	4	
		・研究の日常化	4	
Ⅱ 豊かな心の醸成	A 目標の達成度	・いじめの発生数、不登校生徒の数・復帰者の数	2	3. 5
		・生徒の自己評価(主として生活面)、保護者の評価(人間関係・教育相談)	3	
		・全国学力学習状況調査の数値(学校生活満足度)	4	
	B 方途の有効性	・諸行事、進路体験学習等の有効性	4	
		・校内研究(リレーション活動)の成果・課題	3	
		・生徒会活動への指導・支援とその成果と課題	4	
	C 組織化・機能化の推進・定着	・主任主事、合同委員会(いじめ問題対策委員会・不登校対策委員会)の機能化	4	
		・他機関等との連携(SC、SSW、地域、外部機関による教室等)	3	
		・学年部や分掌(道徳・特活・総合)の機能化	4	
	D 職員の意欲	・職員の自己評価(B 生徒指導)	4	
		・職員の自己評価(C 学級経営)	4	
		・生徒指導や人権教育に係る研修会、市同研への参加	3	
Ⅲ 信頼される学校づくり	A 目標の達成度	・市「コミュニティ・スクール推進状況の評価」の値	3	3. 6
		・生徒の自己評価(地域理解や行事参加)と保護者の評価(三者連携・推進状況)	4	
		・文化理解科・地域ボランティア・学校行事・PTA行事等での実践と成果	3	
	B 方途の有効性	・CS学校運営協議会の設置要項・推進構想・全体構想等の有効性	3	
		・家庭・地域等との連携、PTA活動の活性化、情報発信の有効性	3	
		・学校事故や生徒指導に係る報告・連絡・相談の徹底、5大不祥事の防止・実践	5	
	C 組織化・機能化の定着・推進	・CS学校運営協議会の組織づくりと運営力、学校の体制づくり(校務分掌組織)	3	
		・文化理解科等地域人材の活用、外部講師等の招聘推進による組織活性化の実践	*	
		・日常的な危機管理(リスクマネジメント・クライシスマネジメント)、マニュアルの活用	4	
	D 職員の意欲	・職員の自己評価(C 校務分掌)	4	
		・職員の自己評価(C 家庭との連携)	4	
		・各種研修会や学習会への職員の参加、論文執筆、研究サークル等への参加	3	